23

妙鍼流からの影響を色濃く示す新資料『杉山流伝法地巻』

大浦　宏勝，市川　友理
北里大学東洋医学総合研究所 医史学研究部

昨年の医史学会総会において，京都府立盲学校が所蔵する「杉山流」の名を冠した一連の書籍類について発表した．その中に『杉山流伝法地巻　一百箇条』という新資料が存在する．これは江戸初期，杉山流に先だって京都に存在した，妙鍼流という鍼灸流派の影響を強く受けた資料である．そこで，現在知られている妙鍼流の流儀書各種と比較検討することにより，この資料が如何なる位置をしめ，妙鍼流から杉山流は何を取り入れたのかを確認することにした．

妙鍼流は，熊野に端を発した竹田氏の鍼法の流れを受け，17 世紀初頭に松澤浄室が京都に興した流派である．「門人は数百人」と隆盛を極めたが，免許皆伝を得た高弟は「凡そ四人」だったという．その中に，嫡子の松澤養室，貞享元年（1684）に『妙鍼流兪経偶人図』を著した宮田友閑，貞享 2 年に『鍼灸五蘊抄』を著した田中知箴がいた．鍼灸の治法を述べた流儀書には，上記『鍼灸五蘊抄』（東，南，西，北，中央）の外に，宮田友栢編『妙鍼流秘伝』（五蘊鈔中央，五蘊鈔玄奥，妙鍼流伝授之事）がある．

『杉山流伝法地巻』は，101 条から成る病症に対する鍼灸治法および薬方の説明文である．内容を比較すると，『妙鍼流秘伝』に類似する条文が多く，61 条が「五蘊鈔中央」と共通，6 条が「五蘊鈔玄奥」と共通，3 条が「妙鍼流伝授之事」と類似する．実に全条文のうち約 70% が，明確に妙鍼流の治法である．但し異なる面も見られ，薬方や呪法の書かれたその他の条文は，妙鍼流の他書には見られない．また妙鍼流に共通または類似する条文も，全く同内容という訳ではなく，その中には松澤養室の名も記載され，万治元年（1658）と延宝 3 年（1675）の年号を付して弟子らしき者の治験例が記載されている．こうしてみるとこの『地巻』は，松澤養室の弟子が記録した条文を，杉山和一が京都留学時代に手に入れ編集したものであり，後に杉山から三島安一へ，さらに島浦和田一へと伝えられた資料の一部であろう．さらに穿ってみれば，残りの 30 条に記されている薬方および呪法は，室町後期に用いられていた治法で，細川勝元編『霊蘭集』雑病編に当たる内容と共通するものが含まれている可能性もある．

また，流儀書『杉山真伝流』と妙鍼流との関連性については，三島安一撰「中之巻第二」にある 97 種の治法中，『鍼灸五蘊抄』の北巻の病名と取穴を参考としたものが 36 種，東巻が 4 種，南巻が 4 種，西巻が 4 種みられる．また『杉山流伝法地巻』からも 3 種の灸法が取り入れられている．実に 52 %の治法が，妙鍼流に由来するものである．このことから，杉山和一が京都にて収集した妙鍼流の資料を基に，三島安一は病症を 85 種にしぼり，妙鍼流の治法 51 種を取り入れ，取穴に行うべき刺法を独自に考案して編集したものが，「中之巻第二」であるといえる．

【まとめ】 杉山流の流儀書は，杉山和一が入江豊明に師事し京都に留学していた時代に収集した資料が基礎となっており，これまで明らかにされているように，鍼灸の医学理論と手技は入江豊明から伝授され，療治の大概を記した教本は砭寿軒圭菴から『鍼灸大和文』を伝授された．さらに周辺資料として，腹診に関しては無分流からの伝授書を手に入れ，また多種の病症に対する治法及び取穴に関しては妙鍼流のかなり正確な資料を手に入れていたことになる．その一つが『杉山流伝法地巻』であり，これは松澤養室の弟子が記録した『妙鍼流秘伝』の松澤浄室―養室系バージョンともいえる．